柏崎小

主体的に学ぶ柏っ子の育成

～国語科における読み取る力を育てる授業づくり～

（２年計画の２年次）

校　長　　三角　浩司

１　研究主題について

本校では、教育目標に「夢をもち　自分を育てる柏の子」を掲げ、発達の段階や個性に応じて「夢」をもち、自分の心の中の「三本の苗木：やる気・根気・勇気」を育て広げる教育を行っている。今年度は、昨年度の研究の成果と課題を受け、研究主題を引き続き「主体的に学ぶ柏っ子の育成」とし、日常の授業改善を繰り返しながら子どもを育てる取組を行っていくものとした。

昨年度の校内研究では、国語科に焦点をしぼり、児童が主体的に学んでいくために、読み取る力を育てる効果的な指導の在り方についての実践研究に取り組んだ。それにより、読み取る必要性を高めるために、思考のズレを生かすなどの課題設定の工夫、問い返しやゆさぶりなど発問の吟味の重要性を確認することができた。

一方で、「正しく読む」という概念の共通理解を図ることやコロナ禍にあっても随時研究成果や反省を共有していく場をもつことが必要との認識が明らかになった。そこで今年度は、２年計画の２年次として研究を継続していく上で、国語科の授業において目指したい「主体的に学ぶ」児童像の共有、発達の段階に応じた学習の系統性等を意識しながら授業実践を行っていくことで、本校児童が「わかった！できた！身についた！」を実感でき、主体的に学ぶ力を高めていけるものと考え、本主題及び副題を設定した。

２　研究のねらい

児童が主体的に学びに向かい、読み取る力をつけていくための効果的な指導の在り方を国語科の授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

課題設定、発問の仕方、活動のさせ方を工夫することによって、教材を正しく読み取り、主体的に学ぶ児童を育てることができる。

４　研究内容

(1) 正しく読み取らせる働きかけの工夫

ア　正しく読み取る必要性のある課題設定

イ　読み取る視点に気付かせる発問の仕方

ウ　問いを生み出す教材提示の工夫

(2) 読み取ったことを表現する場の工夫

ア　資料提示、学習形態、ノート・ワークシートの工夫等

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者等
7	7	第 1 回授業研究（4 学年）文学的文章「一つの花」／教諭　高橋留美子
9	6	第 2 回授業研究（5 学年）文学的文章「たずねびと」／教諭　松橋 海渡
9	10	第 3 回授業研究（1 学年）説明的文章「うみのかくれんぼ」／教諭　渡辺 柚
9	29	第 4 回授業研究（6 学年）文学的文章「やまなし」／教諭　小向 一樹
11	8	第 5 回授業研究（3 学年）説明的文章「すがたをかえる大豆」／教諭　栗村千香子
11	10	第 6 回授業研究（2 学年）説明的文章「馬のおもちゃの作り方」／教諭 星野 達郎

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
6	2	鉄棒運動の指導法の在り方についての研修 講師：本校教諭　小向 一樹
6	23	国語科の問題解決的な授業の在り方についての研修 講師：福田 秀貴　主任指導主事
6	30	1 人 1 台端末活用についての研修 講師：石井一二三　主任指導主事
8	20	主体的な学びを支える ICT 活用についての研修（1 人 1 台端末活用実践報告会） 講師：本校教諭　星野達郎・畑中裕子・久保理恵・小向一樹
12	15	自己の生き方について考えを深める道徳授業についての研修 講師：本校教頭　相馬 昌之

６　研究の成果

(1) 児童は、教師の課題設定や発問の工夫により問題を自分事として捉え、主体的に学習に取り組むことができた。

(2) 児童は、サイドラインを引きながら考えたり教材文から根拠を捉えたりすることができるようになり、読み取ったことを発表やノートを通して表現する力が育ってきた。

(3) 教師は、問題解決的な学習を展開するため、課題設定や発問の工夫を意識・共有することができた。また、児童が表現する場のための資料提示や板書の工夫・ＩＣＴ（１人１台端末）の活用も進めることができた。

(4) 研究体制として、コロナ禍においてもオンライン活用により研究を継続できたことがよかった。また、「正しく読む」力を付けるために系統的な指導や教材間で関連付ける学習を意識できたことにより次年度への意識が高まった。

７　研究の課題

(1) 今後も取組を通じて誰一人取り残さないための手立ての工夫が求められる。 また、教材・教科をまたいで得られた成果を共有し、校内研究の日常化を図っていく必要がある。

（記入者　小向　一樹）